

事業所名

児童発達支援放課後デイサービスキッズウェイブ

児童発達支援プログラム

作成日

令和6年

8月

1日

法人（事業所）理念		共に生きる 四つのキーワード「目標」「努力」「発見」「自信」を大切にスモールステップで「自己肯定感に裏付けられた自信」と「やる気」を子どもたちの心を育む。					
支援方針		子どもの「わかる」「できる」「たのしい」をみんなで大切に、あたたかい発達支援、療育を進める。					
営業時間		9時	0分	18時	0分	送迎実施の有無	あり
		支援内容					
本人支援	健康・生活	A) 健康状態の把握。子どもの表情、動作から「いつもと違う」小さなサインを読み取り、心身の異変にいち早く気が付けるようきめ細やかな観察を行う。 B) 基本的な生活スキルの獲得。食事・排泄・衣類の着脱など、生活に必要なスキルを身につけられるように支援する。 C) 生活リズムや生活習慣の形成。子ども自身が理解しやすく気が付きやすい環境の設定を行うことで、子ども自身の気づきを促し習慣化に繋げる。					
	運動・感覚	A) 姿勢と運動・動作の向上。姿勢保持や上肢・下肢の運動、バランスを保持する力を育む。活動を通して筋力の維持・育成に努める。子どもが自分で出来る環境を整え支援することで、自分で「できた」という自己肯定感を育み「やる気」を育てる。 B) 保有する感覚の活用。視覚・聴覚・触覚・固有覚・前庭覚などの感覚を刺激する遊び・活動を設定する。					
	認知・行動	A) 感覚や認知の活用。視覚・聴覚・触覚を活用し、子ども自身が必要な情報を収集して理解に繋げやすい環境を整える。 B) 認知の偏り、行動障害への予防及び対応。個々の特性に配慮し、環境への適応の難しさやこだわりに対する支援を行う。子どもの感覚・認知の偏りを把握して支援を行うことで適切行動を促す。					
	言語 コミュニケーション	A) 言語の形成と活用。物やこどもの体験と言葉の意味を結びつけるような支援を繰り返し丁寧に行う。 B) 表出言語の支援。自分の思いを他者に伝える為の支援を行う。 C) 指差し・身振り・ベビーサインなどの活用。指差し・身振り・サインを用いて自身の意思を伝える事が出来るように支援を行う。					
	人間関係 社会性	A) 他者との関わり（人間関係）の形成。指導員との安定した関係を築いていく。他者に興味を持ち、他者の動きを模倣することで社会性の育ちを支援する。 B) 集団への参加のための支援。小集団での生活を通してスモールステップで社会性の発達を支援する。					
家族支援		A) 家族からの相談に対する適切な助言や愛着形成などの支援。家族が安心出来るように家族の負担を軽減していくための支援を行う。 B) 子どもの発達課題についての気づきの促しと今後の支援。アセスメントツールを用いるなど、客観的にわかりやすく伝える工夫を行う。			移行支援		A) 併行通園先・移行先との連携。支援内容の共有や、支援方法の伝達を行う。相互に訪問、見学を行い、密に情報連携を行う。
地域支援・地域連携		A) 保育所などの子育て支援機関との連携。 B) 協議会などへの参加。 C) 希望が丘などの専門機関との連携。			職員の質の向上		毎月1回内部研修を行い、障害特性・感覚統合・ABAを軸に子どもたちへの対応方法を学ぶ機会を設ける。
主な行事等		リトミック/クリスマスリトミック お話をしよう・お話を聞こう 行事に関する制作活動					